

優秀賞 水の週間実行委員会会長賞

「水を大切にする」とは

北海道 音更町立緑南中学校

三年 加藤直也

ある日、我が家に三株のパンジーの花がやって来た。初めは大事に育てていたのだが、しばらく経つと水やりを忘れがちになってしまった。気が付いた頃には花は、しおれ気味になってしまっていた。この時、私は改めて気付いた。生き物が生きるためには、水は欠かせないということ。実は、私たちは水に生かされている。そう考える人は決して多くはないだろう。なぜなら、蛇口をひねれば水が出るのが、当たり前という環境の中で暮らしているからだ。今の私たちが、水の大切さを身体で学ぶことは極めて少ない。もしかしたら、それが「水の軽視」につながっているのかもしれない。果たして水を大切にするということは、どういうことなのか。

まずは普段私たちが、どれ程の水を無駄にしているのかを調査してみた。私はよく自分で食事を作ることがある。恥ずかしながら、いつもは自分がお腹いっぱいになることしか考えずに作っている。そこで今回は、手を洗ってから「野菜の油いため」を作り、食器類を洗うまでに、どれ程の排水を出すのかを調べた。調査は二回行った。条件はそれぞれ一回目は「いつも通り」、二回目は「節水を心がけながら」作るということ。材料の分量等、この他はすべて同条件で行ってみた。すると、驚くべき結果が出た。一回目に出た排水は、約五六五〇ミリリットル。二回目は、約三七〇〇ミリリットルだった。つまり、今回の調査では、約一九五〇ミリリットルもの水を節水できるということがわかったのである。それにしても、どうしてここまで節水できたのか。理由は二回目の「節水を心がけながら」作るところにある。具体的には、「野菜や食器を洗う時は、水を出しすぎず、出しっぱなしにしない。」こと、「洗剤は最小限におさえ、食器をゆすぐ水を減らす。」ということを意識するのだ。そうするだけで、約三分の二にまで排水量を減らすことができたのである。私はこの調査を行ってみて、正直、本当に驚いた。節水することは、いかに簡単なのかを知ったからだ。それと同時に、こんなに簡単にできることを、なぜ世のすべての人たちがしないのかとても不思議に思った。

今、コンビニに行けば、生活に必要な物をほとんど買うことができる。そのコンビニで目にしたのは、「名水でつくられた水」。私はこれを見て、ふと思った。水を大切にしない私たちにワンランク上のものを要求する資格があるのかと。上下水道が普及している現代、私は飲料用にも水道水で十分だと思う。しかし、最近では、名水やアルカリイオン水といった良品質の水を好む志向が高まっている。それ自体を否定するわけではないが、現代人の多くは、「水を選ぶ域」に達していないように思える。そんな私たちの望みがかなえられてしまつて、便利な「水世界」になってしまった。それが、水のありがたみを忘れかけてしまう原因になったとも言えるのではないだろうか。

水を大切にするということは、「水に恩返しする。」ことではないか。今後も私たちが生かしてくれる水に私たちの手で休養を与える。そんな気持ちで、アクションを起こす時期にきている。節水を当たり前にできるように、一人ひとりが意識を高めていきたい。洗面所のシャワーの流しっぱなしを一日一分短くすれば、水道代が一四〇〇円節約できることを、あなたは知っているだろうか。水は無限にあるわけではないことを、あなたは知っているだろうか。そんな「水知識」を高めることが、水を大切にすることにつながるのだ。水質汚染の最も多い原因は家庭排水。しかし、裏を返すと家庭で気を付ければ、水質汚染をくい止めることができるはずだ。水の未来は私たちにたくされている。

水さん、ありがとう。これからは恩返ししていくよ。